



STAS-J(緩和ケアの評価尺度)について

緩和ケアとは、「重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」であり、がんとわかった時からはじまります。

現在、A5・A6・中6西・中7東・中7西病棟に入院するがん患者、大腸がんで外来化学療法を受けている患者を対象に「生活のしやすさに関する質問票」を用いて苦痛のスクリーニングを行っています。身体症状の苦痛によって日常生活への支障が生じている場合や、気持ちのつらさが6/10以上の場合、緩和ケアが必要と判定し、早期からの緩和ケアの提供が出来るよう努めています。今回、ご紹介の「STAS-J (Support Team Assessment schedule)」とは、英国の Higginson らによって開発されたホスピス・緩和ケアの日本語版評価尺度です。医療専門職が自らのケアを評価し、改善していくために定期的、適切に使用することで、緩和ケアの成果とケアの質の高さを客観的に明らかにすることができます。

1)項目

- ・痛みのコントロール
- ・症状が患者に及ぼす影響
- ・患者の不安
- ・家族の不安
- ・患者の病状認識
- ・家族の病状認識
- ・患者と家族のコミュニケーション
- ・医療専門職間のコミュニケーション
- ・患者・家族に対する医療専門職とのコミュニケーション

2)評価方法

- ・医師・看護師など医療専門職による**他者評価**
- ・各項目を0～4の5段階からなる各段階につけられた説明文を見て最も近いものを選ぶ
0:症状が最も軽い(問題が小さい)
4:症状が最も重い(問題が大きい)
- ・チーム・カンファレンスで話しあい記入
- ・評価時期:入院時(病棟の場合)、週に1～2回
外来は、病名告知後や病状説明後
- ・個別に解釈

苦痛のスクリーニングは、患者・家族に生じている苦痛を積極的に医療者に理解してもらえる手段となり、STAS-Jを用いて、緩和ケアの評価を行い、症状緩和が迅速に行われ、患者・家族の QOL が向上するようになればよいと思っています。
(文責 在宅医療室 佐藤久美恵)



豆知識



在宅で、噛む力が弱くなっているが、きざみ食では見た目が悪く食べてくれない方も多いと思います。

見た目はそのまま、やわらかく加工されている、「あいと」という商品があります。焼き魚や肉料理、れんこんなど通常の調理では噛み切れないものも、スプーンでつぶせるぐらいのやわらかさになっています。

入院中の食事としては採用しておりませんが、在宅用にパンフレットをご用意しています。栄養科へお問い合わせください。

お知らせ

- ・みなみ QOL 研究会
12/15(火), 1/19(火) 17:45～19:00
- ・緩和ケア勉強会「痛みのアセスメント」
11/6(金), 2/18(木) 17:45～18:45

